

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1273300317		
法人名	株式会社ユニマツリタイアメント・コミュニティ		
事業所名	四街道ケアセンターそよ風		
所在地	千葉県四街道市物井1596-4		
自己評価作成日	令和4年4月25日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと
所在地	千葉県千葉市稲毛区園生町1107-7
訪問調査日	令和5年4月24日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「世界で一番、仲間を大切にできるチームであり続ける」の理念のもと、グループホームでは「安全に楽しく家庭的に」をモットーに、ご入居様とスタッフが生活機能訓練として一緒に食事作りや洗濯掃除等、楽しい日々を過ごしております。ご入居様一人一人の気持ちに寄り添い、楽しみや夢を持ち夢をかなえる、自己実現を目指しています。ご入居様、ご家族様の笑顔に励みに、スタッフ一同プロの介護士として意識を高め、そよ風に関わるすべての人の幸せを感じる温もりのあるグループホームです。ご入居様の情報共有やケアへの要望を取り入れ、日常生活での体操や外出の機会を設け健康維持に努めています。ご家族様の協力を得ながら一体となりねご入居様とご家族様が日々安心して穏やかに過ごして頂けるよう、より良い環境作りを努めています。訪問診療に加え、訪問看護を導入したことで、医療面でのサービスを拡充し、安心できる生活環境を整え、看取り介護の事例実績もあり長期的支援としても安心できるというご家族評価を受けています。自然にあふれ、季節ごとの花や動物に出会う事が出来ます。近隣には小学校や幼稚園があり、子供たちとの交流の機会があり地域ボランティア等、様々なイベントがあります。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

法人理念「世界で一番、仲間を大切にできるチームであり続ける」およびホーム理念「安全に楽しく家庭的に」を実践している。職員の関係性がよく、利用者は日々を笑顔で過ごしている。生活のなかでの機能訓練に力を入れており、施設内歩行、午前・午後体操、食材の下準備、洗濯物たたみ、歌と手拍子などのプログラムがある。リクライニング式車椅子を使う介護度の重い利用者も参加し、生活に楽しみができるよう工夫している。訪問診療、訪問看護との医療連携体制・看取り体制があり、利用者、家族の安心につながっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念として「世界で一番、仲間を大切にすするチームであり続ける」を掲げており、事務所として「安全で楽しく家庭的」を職員一同意識しながら取り組んでおります。	法人理念「世界で一番、仲間を大切にすするチームであり続ける」とホーム理念「安全で楽しく家庭的」をスタッフルームに掲示し、また毎月の全体会議で唱和もして、実践に繋げる努力をしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	現在コロナウィルスの感染が広がっている状態なので外出の制限を行っております。	ホームで地域の自治会に参加し、段ボール回収の活動をしている。対面での自治会活動・行事は、感染防止の観点から参加を自粛している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	教育機関から依頼がある再には、実習生の受け入れを行っております。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、入居者様やサービス等の取り組み状況を報告し、意見交換や質疑応答を行い、今後のサービスに反映できるようにしております。	コロナ感染防止のため、年4回開催を2回に減らしている。行政、利用者家族に開催通知を送付し、意見を議事録に反映している。議事録は会議のメンバー全員に郵送している。	コロナ収束に伴い、開催回数を年4回に戻していくことが期待される。民生委員や自治会など地域の人たちの参加再開も望まれる。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	年に4回の運営推進会議に市職員・民生委員・自治会に参加を依頼し、意見交換を行って行いましたが、コロナウィルスの感染のため自粛しております。	行政からコロナほか感染症対策に関する連絡を受けたり、ホームからは空き情報の提供や運営に関する相談をしたりして、相互に連携している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会を設置しております。施設全体で研修を行い、情報共有を図り理解を深めております。	「身体拘束ゼロへの手引き」を作成し、事例を基に研修を重ねている。身体拘束廃止委員会を毎月開催し、身体拘束をしないケアに繋げている。議事録も作成し、職員間で共有している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎月委員会を開催し、施設全体で研修を行い、日々虐待防止に努めております。		

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度利用される入居者様も増えており、職員全体で制度について理解を深められるように研修開催しております。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には契約書と重要事項説明書の説明を行ってから同意をえています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	来所時や電話で、ご質問やご意見を頂き、頂いたご意見は改善点として運営に反映させております。契約時にも苦情・相談窓口の一つとして、行政機関の連絡先も記載し、ご家族様にお伝えしております。	ホームの状況報告書を、毎月利用者家族に郵送している。家族の来訪時に職員が意見を聞いている。郵便物の扱いなど、家族から寄せられた意見は可能な限り対応している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	普段から職員とのコミュニケーションを大事にし、必要時には個人面談等、個々の意見が反映出来る様取り組んでおります。	職員間の関係性はよく、活発な意見交換でより良いケアの実現に努めている。申し送りノートなども活用している。施設長と職員との個人面談もおこなわれている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	定期的に個々との話し合いや面談等を実施し、スタッフここの悩み・意見を聞いております。お互いに働きやすい環境が作れるように日々努力しております。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人職員には研修期間中、管理者や先輩職員が個別指導に当たっております。研修を開催し職員一人一人のスキルアップをはかっております。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	四街道市中のGH職員が集まり意見交換を行い情報を持ち帰り現場職員に伝え共有していましたが、コロナウイルスの関係で同業者者共々自粛しております。		

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	計画作成や職員、ご家族との情報交換、実調を行い、ご本人様とよく話しをして聞き取りを実施しております。また普段の生活リズムを把握し安心した関係・環境づくりに努めております。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前にご本人様やご家族様の困っていることなどに耳を傾け、ご本人様らしい生活を提供出来るように協力体制や信頼関係づくりに努めております。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	施設見学時や待機申し込みの際に、ご本人様の状態を把握し、ご本人様にあった生活が出来るようなアドバイスを行っております。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共同生活の中で本人様が望む生活を行うためにもコミュニケーションを通じ、ご本人様と交流をもち信頼関係を築いております。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	来所時や電話等、ご本人様の状態を伝えることでご家族様に把握して頂くことが出来ます。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナウィルスの関係で外出制限させて頂いております。面会は事前予約でガラス越ししか状況によって2m感覚を明けお会いする対策をとらせて頂いております。	感染対策のため、対面での面会はガラス越しとしていたが、徐々に緩和している。事前に予約して、家族との外出も可能になった。手紙の受け渡しや、電話の取次ぎもおこなっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者様同士が上手にコミュニケーションが出来るように職員が間に入り、楽しみながら生活が出来るように支援しております。		

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了しても、近隣のイベントや家族会にお招きし交流を図り、相談等を受け入れる環境を作っております。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の中でのコミュニケーションを大切にし、一人ひとりを観察や傾聴しております。なるべく本人様の意向に沿った介護を行っております。意思疎通が困難な方には以前の生活歴やご家族様に相談し情報収集しております。	入居時に家族から情報を得て、なじみのある呼び方で声かけをしている。利用者の表情やしぐさをよく見て、希望や意向を把握し、無理強いとしないようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人様やご家族様とのコミュニケーションを図り、その方らしい生活をできるだけ把握し過ごしやすい環境作りを行っております。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご利用者の状態の変化、様子を把握して業務中や申し送りの際に職員同士で話し合い、共有しております。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご家族様・医師・看護すべての関係者一同がチームとなりカンファレンスを実施しております。	日々のかかわりを通じて必要なケアを把握し、毎月の会議で意見交換してケアプランに反映している。月2回の訪問診療の際に医師の意見も聞いている。見直しは半年に一度で、変化があれば随時に変更している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	実際に話をした内容を記録するように心掛けております。また職員がどのような声掛けをしたのかを記入することで新たな気づきが出るようにしております。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人様やご家族様の状態やニーズに対応して柔軟に対応できるよう心掛けております。		

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のイベント(夏祭り)の参加や(コロナウィルスの為外出を自粛していいいます。)、消防署立ち合いの避難訓練(年度3回)、行方不明時の警察との連携などがとれるようにしております。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人様・ご家族様が希望している受診先を把握し、事故等があった際には優先的に希望先に搬送させて頂けるようにしております。	往診が月2回あり、緊急時は24時間オンコール体制も出来ている。訪問看護師が週1回、爪切りや健康管理をおこなっている。専門医の受診は家族対応だが、急な受診は職員が同行し、情報を共有している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	入居者様の些細な変化に気づき、訪問診療及び訪問看護との連携を図り健康管理等を相談し支援してまいります。また早朝の対応、適切な受診、看取りを受けられるように充実させております。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には担当の看護師等と情報交換、相談をしたりと連携・情報共有・交流を図ってまいります。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご本人様の尊厳を重視し、この入居者様やご家族様の意向・関係者一同がチームとなり、終末期に向け、一瞬の必要なケアや思いを反映した大切な時間を過ごしています。	「重度化、看取りに関する指針」を作成しており、職員に周知している。看取り事例もあり、家族からお礼の言葉もあった。振り返りもおこない、職員のメンタルケアや今後の看取りについての話し合いもおこなっている。	コロナ禍で戸外での活動が減っている状況にあり、利用者の身体機能低下が懸念される。重度化が進まないよう、体力づくりなどが促される。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故の際には、職員は管理者と連絡を取り指示を受けたり、緊急マニュアルに沿って対応しております。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年3回避難訓練を行っております。その内、夜間訓練1回行っております。消火器訓練や訓練後の指導を受けいざという時に行動が出来るように取り組んでおります。	マニュアルは作成しており、消防署の協力を得て、避難経路の確認もおこなった。近隣の小学校が避難場所となっている。食料品、飲料水は3日分、米や補助電気、発電機も備蓄している。	今後は、備蓄品のリスト作成、近隣住民との連携の強化、ホーム独自の事業継続計画(BCP)の作成を期待する。

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご入居様の特徴を把握した上で尊厳やプライバシーをその人に合ったそれぞれのケアのあり方・方針を適切に実施することで確保しております。	利用者の人柄などは申し送りノートで共有している。声かけの仕方は、職員会議で話し合いをしている。タブレット端末にはパスワードを設定し、書類は鍵のかかる書庫に保管して、個人情報保護している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員が日頃から本人様の意見に耳を傾け、希望を実現できるように心掛けております。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務優先にならないように注意しながら、一人一人の生活リズムやペースを大切にしながらご入居様の希望にあった生活が出来るように心掛けております。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床・就寝時の着替え等、ご本人様の希望に沿いながら、季節に応じた選択が出来るように支援しております。また、2～3ヶ月に1度理美容にきて頂き、カットや髪染め当のおしゃれも楽しんで頂いております。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	スタッフと一緒に調理や盛り付けなどを楽しんで行っていただいております。誕生日にはご本人様からの希望メニューを取り入れ楽しさを提出しております。	栄養バランスを考えた食材が日々配達され、職員が調理している。コロナ禍で制限はあるが、職員と利用者として野菜の下拵え、ケーキ作りなどを行っている。外食に代わり、寿司の出前などで普段と違う食事を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	基本的にはバランスの取れた献立をもとに提供しております。食事・水分摂取をチェックし、一人一人の状態を把握して支援しております。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを行っております。介助が必要な方には声掛けや介助を行い、清潔を保持しております。必要に応じて訪問歯科の利用を実施しております。義歯利用社には毎日義歯洗浄剤の使用を支援しております。		

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を使用し排泄パターンを把握し、一人一人の習慣に合わせて声掛けや誘導を行っております。また、出来る限り自尊心を傷つけないように常に心掛けながら支援しております。	排泄表を作成し、タブレットで共有している。排泄介助時は利用者の自尊心に配慮して声かけしている。ズボンの上げ下げなど、出来るところはやって頂き、自立支援の工夫もしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表から排泄リズムを把握しております。コントロールが必要な際は主治医に相談し、指示のもと支援しております。体操や牛乳等を召し上がって頂き自然排便を促しております。それでも出ない場合には処方されている緩下剤を使用致します。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	体調面には十分に配慮し、ご自分できないところはお手伝いして頂き、ご自分のペースに合わせて、気持ちよく入浴をして頂けるよう実施しております。	週2回、同性介助にて入浴している。時間や曜日の変更にも応じている。季節に応じ、ゆず湯なども提供している。重度化した利用者のため、同法人の通所で機械浴を使う検討も始めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時間は特に決めておりません。一人一人の生活のリズムに合わせて休んで頂いております。遅くまで起きられているときには、職員と一緒にリビングで過ごさせております。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	主治医が薬を決め、薬剤師が中心に薬の管理を行っております。職員は常に薬の内容や増減、変更を申し送っております。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者一人ひとりにあつた家事を手伝って頂き、生活の中で楽しみや、やりがいを感じて頂けるよう支援しております。体操等で身体に刺激を与え、ADLの低下を予防しております。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	コロナウィルスの関係で外出制限させて頂いております。施設(GH)内で出来る、体操、唄、等のレクリエーションで楽しんで頂いております。	コロナ流行前は花見や買い物に出かけていた。現在は廊下の歩行、歌、テレビ体操などで体を動かし、気分転換している。最近では中庭での外気浴も始めた。コロナ収束に向け、ユニット合同レクやドライブを計画している。	

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的に現金はお預かりさせて頂いております。買い物をご希望の時には職員と一緒に出かけ、入居者様にに応じて支払っております。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状や暑中見舞い等を記入出来るご入居様には一筆書いて頂いております。電話のご希望時には支援しております。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご入居様の個性を活かしたそれぞれのレクを取り入れ、生活感のある充実した時間をすごしています。時にはユニット合同での集団レクを実施しております。	共用部の空間は、清潔で整理整頓されている。利用者と職員が一緒に作った、季節を感じる掲示物が飾られていた。利用者同士でくつろげるソファも置かれている。換気は、1時間に1回おこなっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	仲良く過ごして頂けるように職員が間に入りコミュニケーションのお手伝いしております。歌を歌ったり、ご入居様が笑顔で過ごせるように努力しております。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族様に相談し、思い入れのあるものを出来る限り使用し頂いております。新しく必要な場合は出来るだけご入居様と一緒に買い物にいき、選んでいただける様にしております。	馴染みの品の持込みは特に制限していません。利用者が見える位置に家族が作った飾り物が置かれていた。職員が毎日掃除をし、週1回シーツを交換する。整理整頓されており、時間を見て換気をおこなっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご入居様一人一人にあった家事を手伝って頂き、生活の楽しさや、やりがいを感じて頂けるよう支援しております。		

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと